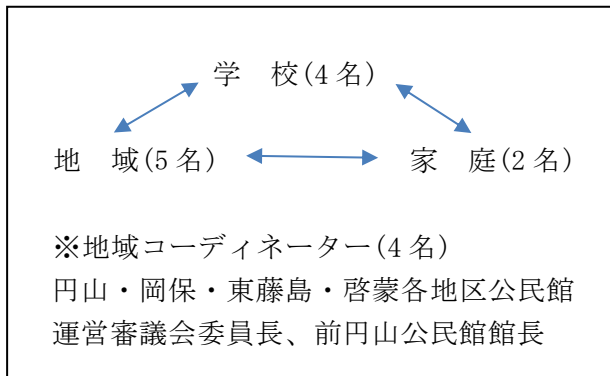


令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

福井市大東中学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- ※開催回数 2回
- ※開催日程 6/12、2/28
- ※協議内容
 - ・学校経営方針の共通理解
 - ・年間活動計画の吟味
 - ・学校評価結果の分析と次年度の検討
 - ・学習指導要領改定や働き方改革に伴う学校経営方針の説明および協議

(3) 協議会における成果と課題

<成果>

- ・昨年度の協議会で今年度の学校経営方針の見通しを説明したことで、今年度の活動に対し、年度当初から協力的な支援を得ることができた。
- ・昨年度の協議会で生徒の安全・安心について意見交換をしたが、今年度はそれを受け、「大東中学校安全マップ」を見直し全面改定をした。公民館をはじめ、地域関係者や保護者から全面的な協力を得ることができ、意識が高まった。

<課題>

- ・秋の祭りなどは開催時期が4地区とも重なっており、吹奏楽部などはすべての地区から出演を依頼されているため、部員や顧問の負担が大きい。そのため、協議会で学校としての考えを提案し理解はしてもらえたが、4地区とも中学生が参加することに対する期待の方が大きく賛同を得にくい現状がある。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

ふるさとの魅力度アップを目指して大東地区を中心に探究活動を行い、地域の方々の生き方を学ぶことで、ふるさとに対する誇りと愛着心を高め、自分自身の生き方について考える。

(2) 活動の実際

① 啓蒙の新保ナスを広めよう(2学年)

啓蒙地区では、伝統野菜である新保ナスを使った新メニューを考案、企画し、喜ね舎愛菜館で試食販売会を行った。当日は新保ナスのピザ風トッピングなど3種類の料理を用意し、買い物客やJA利用客に声をかけ試食ブースに案内し試食していただいた。大変好評であった。用意した100個の新保ナスは1時間ほどで完売した。当日の様子は福井新聞の記事に掲載された。



②「大東校区の未来を考えよう」提言発表会（1学年）

12月13日（金）、1年生の総合的な学習の時間に取り組んできた地域学習の集大成として、5名の地域コーディネーターと調査活動で訪問した方々を招待し、自分たちが考えた34の提言を発表するポスターセッションを行った。地域コーディネーターの方には直接、提言内容のアドバイスをいただき、調査活動でお世話になった方からも多くのアドバイスをいただいた。



（3）地域コーディネーターの活動概要

- ・地域コーディネーターのお話を聞く会で、地区の魅力・課題を的確に説明していただいた。
- ・提言発表会では、各地区の提言発表に対し、大人の視点での助言や意見をいただいた。
- ・提言の実現に向けて、公民館や関係団体との連絡調整、協力をしてくださった。取組当日のみならず、事前の準備や試食などにおいても、活動の支援者、協力者を各地域から手配してくださった。また、活動当日は生徒と一緒に活動に参加してくださり、生徒と地域の方がスムーズに交流できるように支援していただいた。
- ・地域行事に、中学生が関われる内容を工夫して組み込んだり提示してくださったりした。

（4）特に工夫した事項

- ・計画や準備の段階において、外部関係者と生徒が関わる機会を多く設けた。（2年）
- ・地域コーディネーターや地域のことに詳しい人から地域の魅力や課題について話を聞くことにより、興味や関心を高められるようにした。（1年）
- ・生徒が住んでいる地域ごとにグループを編成して調査探究活動をすることで、興味や関心を高め、意欲的に取り組むようにした。また、地域の人々との関わりや発表の場を工夫することで学習成果が地域に広がるようにした。（1，2年）

（5）成果と課題

2年生が考えた32の提言を具体化して実際に行うとなると、企画や予算など現実的な計画が必要となるが、企画の段階から地域の方の助言や協力、支援を得ることで、提言を実行に移すことができた。どの活動も生徒は地域の方と交流し、地域行事に参加するだけでなく、運営する側としても関わることもできたので、大きな充実感を味わうことができた。課題としては、提言を実行に移す時期を検討することがあげられる。今年度は夏休み期間中に提言を実行に移したが、生徒を集めることが難しかった。話し合い活動を計画していても、部活動等で全員が集まれないこともあり、なかなか活動が進まなかった。来年度はどの時期にどのような活動を行うとより大きな教育効果を得られるのかについて検討し、前もって地域の方とも相談しておく必要がある。

1年生は、居住地域ごとにグループを編成し、より身近な地域の課題や魅力に焦点を当て、地域の魅力度アップのための提言発表に取り組んだ。生徒も地域住民も互いによく知っているということで、より一層、興味・関心をもって活動することができた。12月13日の提言発表会では、地域の活性化に向けて自分たちができることは何かを真剣に考え、活動を通して郷土への愛着を深めることができた。振り返りでは、来年度の提言実現に向けての意欲を書いている生徒が多かったことも大きな成果といえる。ただし、クラスを解体して居住地区のグループに再編したことで、常に同じ時間に学年全体で活動しなければならないという物理的な不自由さが生じた。その点は課題として、来年度検討していくとよいと考える。